日本大学薬学部校友会

桜薬会会報

No. 72

薬学部　833B 実習室

April. 2020

目　次

目次…… 2
人物往来　富井純一郎…… 3
特集　真菌と深在性真菌症―基礎から最新のトピックまで―…… 6
生涯教育講座のご案内…… 11
研究室だより…… 12
研究室同窓会…… 17
地区支部・職域支部だより…… 18
桜の木の下で…… 21
日本大学・日本大学校友会ニュース…… 25
薬学部ニュース…… 26
令和３年度日本大学薬学部入学試験期日及び科目等 …… 28
第 18 回日本大学医療系同窓・校友学術講演会 …… 30
会務報告…… 31
会合予告…… 32
会費納入報告…… 34
令和２年度　通常総会・懇親会のお知らせ …… 36
★表紙写真　撮影者・薬学部写真部

第 32 回桜薬祭のご案内　母校を訪ねる日

第 32 回桜薬祭（薬学部学園祭）が来たる 10 月 31 日（土）・11 月 1 日（月）の両日、薬学部校舎で開催されます。

薬学部校友会では、**10 月 31 日（土）**を校友の「**母校を訪ねる日**」と定めて当日参加校友（工学部薬学科・理工学部薬学科・薬学部卒業生）に昼食券（500 円）を進呈しております。

当日は学生会員による模擬店や研究発表が行われております。校友の皆様お誘い合わせの上ご来校ください。多数のご参加をお待ちしております。

人 物 往 来

27 期（理工学部薬学科：1982 年卒）富井　純一郎

1982 年卒業の富井純一郎です。思いがけない執筆依頼のご推薦を渡邊和子先生から頂戴し、覚えて下さっていたかという嬉しさのあまり思わず引き受けさせて頂きました。という事で、お世話になった先生皆々様への感謝と「学成り難し」だった反省を込めて、僭越ながら駄文をしたためます。

【生まれ育ち】北海道空知郡深川市に中学校教員の父のもとに生まれ、その後、実家は栗沢町、石狩沼田町、富良野市、芦別市、鶴居村と道内を転居しました。

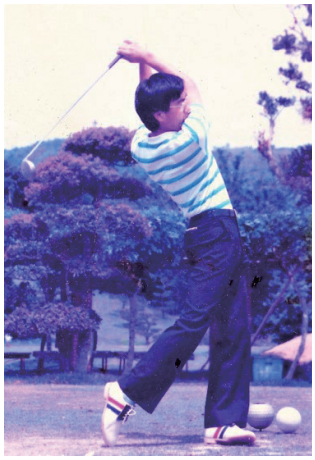
【大学時代】部活動等々を振り返ると、歴史ある総合大学としての日本大学の理工学部薬学科に入学できて本当に良かったと思います。

【部活動①：日本大学新聞社初の理工学部の学生記者】皆様ご存知の日本大学新聞は単なる大学学生新聞の枠を超え、日本大学関係各所に向けてピーク時公称 10 万部の発行部数を誇りました。企画から取材･整理･印刷まで全て学生記者と日本大学新聞社（といっても日本大学組織の一部門ですが）の職員が力を合わせて紙面を作っていました。「薬学なのに授業や試験は大丈夫か？」と先輩たちはいつも私を心配してくれていましたが、結局心配通りになってしまうのが世の常です。それでも同新聞社から拝受できた毎月の奨学金は大変貴重で、今でも感謝しています。

【部活動②：日本大学管弦楽団のコントラバス奏者】桜薬会会報 No.64（2016 年 4 月）の藤本康嗣兄のご寄稿にもある「炎のコバケン」こと小林研一郎先生が指揮されていた学生オーケストラです。コンサートマスターだった彼やトロンボーンの高山 哲兄ら薬学科の同志らのオケの練習を見学するうちに、私も試しにコントラバスを弾く事になり、結果的に「ぶ厚い音程」の原因になってしまったことは今でも心苦しい限りです。

【その他：アルバイト諸々の件】ある日、一念発起して授業料と生活費をバイトで稼ぐ事にしました。すると学生の本分である勉強に十分な時間と労力を充てられなくなり、これも「学成り難し」の原因の一つになりました。このバイト優先は痛恨の判断ミスで慙愧に堪えませんが、苦節有余年の薬学生生活を総括すると、全てが将来に役立つ有意義な経験でした。その後の就職活動もたまたますぐに決まり、そして最後のハードルであった国試はたまたま知ってる問題ばかりだったため、「9 月にもあるから大丈夫」という周囲の励ましは全く無用のものとなりました。

【サンド薬品のプロパー時代】（今の MR プロパー）採用でサンド薬品（今のノバルティス）に入社し、箱根の原野の富士箱根ランドに約 1 か月隔離される新人研修を経て、最初の赴任地は香川県でした。中規模病院と開業医と卸を担当し、2 年目からは卸の支店を独りで任されました。そしてやっと仕事を覚えた頃にいきなり徳島大学病院担当を命じられ、同病院と基幹病院を担当する事になりました。徳島は人口比で医師や医療機関が多く、熾烈で多忙な営業活動に明け暮れました。そういう忙しい中、地域の学術研究会発足に携われたため、知的充実感もありました。仕事に必須だったゴルフは「素振りはシングル、スコアはトリプル」の実力を誇りました。



素振りシングル

【サンド薬品：プロパーから本社臨床開発部の治験モニタリング担当者へ】やっと大学病院に慣れた頃、全国から選抜された大学担当プロパーが治験モニタリ

ング担当者になるべく本社開発本部に異動する事になり、なぜか私もその中に入り、車で走り回る仕事から全国各地に出張しまくる仕事に変わりました。モニタリング担当施設は、北は北海道から南は九州まで最大で約 50 病院を超え、今でいうブラック企業的要素満点で、深夜のタクシー帰宅もしょっちゅうでした。ホテルの宴会場に全国から医師を集めての研究会も数多く、立食懇親会の残り物と使用後の生花を花束にしてもらうのが楽しみでした。

【初のスイス出張】この頃、上司の代理でスイスに突然の出張（アンカレジ経由！）を命じられ、必死でスイスまで行って目的の学会場でスイス本社の同僚に会うと「お前の発表資料を早く出せ」とか言うから「僕ですか？」と返答しました。上司は「米アレルギー学会の医者が日本の喘息日誌の話をするよ」と言ってたのに。資料が無いのでホワイトボードに単語を書き、パントマイム的英会話で日本の喘息日誌について 30 分話しました。その時の腋下をつたう冷汗の感覚を思い出すと、もう怖いものはありません。

【サンド薬品：薬効薬理試験担当者 / 臨床チームのリーダー】担当治験が終わるやいなや、臓器移植関係の薬効薬理試験（動物実験）担当に移動させられ、犬の腎移植手術の助手としてイソフルランの麻酔管理（犬の舌の色で麻酔器を調節）等を手伝いました。犬の容体急変時の連絡用に当時誰も見た事がなかった携帯電話を持たされました。薬効薬理試験終了後、喘息治療薬の国際プロジェクトチームメンバーに突如選ばれ、スイス本社に全世界からのメンバーと一緒に集められました。そのプロジェクトチームリーダーは随分若いのに日本の社長や本部長よりずっと偉く、グローバル製薬会社の本社の力を思い知らされました。

　そのチームが解散後、ストックホルムの学会帰りに本社にまた呼びだされて出頭すると、ある特別プロジェクトの日本の特別臨床開発チームのリーダーにさせられていました。そのプロジェクトは臓器移植や再生不良性貧血、ベーチェット病等々、難易度の高い 7 つの疾患が含まれ、特に死体腎移植はいつ担当医師から問い合わせ電話が入るかもという事で、マイカーのトランクに全治験実施計画書を積んでいました。

【ノバルティス：臨床開発部の品質管理部門】特別プロジェクトの承認申請のために臨床開発から品質管理部門に異動し、必死の思いで承認取得出来たら、休む間なく Y2K 問題対応のシステムバリデーション委員会の臨床リーダーを任され、2000 年問題対応完了までは時間との闘い的スケジュールで働きました。そうこうしているうちに会社組織が突然グローバル化され、所属していた臨床品質管理部門が完全に消失し、臨床監査部門に異動しました。

【ノバルティス：臨床監査部門】臨床監査部門は二次評価者や指導者が全て外人で、海外も含め出張が一気に増加したり、手順書も英語になったりで相当面くらいました。その後 10 年間を臨床監査部門で勤務したのち、30 年間以上務めた会社をあっさり辞めました。

【アイコン・ジャパン：臨床監査部門】ノバルティス退社翌日に入社したのはアイルランドのアイコンという CRO（臨床開発業務受託機関）でした。アジアの臨床監査チームを任され、5 人の部下はインド人が 2 人、韓国人が 2 人、中国人が 1 人という状況でした。外資系企業によくあるパターンですが、上司はイギリス人男性から女性、次にシンガポールにいるフランス人女性と変わりました。チーム運営の電話会議では身振り手振りの英語が使えず苦労しました。アジア各国のタフな出張が数多く、ストレスも溜る約 4 年間の勤務でしたが、パスポートのページをどうにか少し残し、無事に定年退職を迎えられました。

聖路加タワーからの隅田川

【新日本科学 PPD：臨床監査部門】前社退職後、ご縁があり現在の勤務先である新日本科学 PPD という CRO に GCP 監査シニアマネージャーとして入社しました。会社は聖路加タワーという隅田川を見下ろすビルにあります。

現在は社内の臨床監査業務の他に、業界団体活動として日本 QA 研究会特別プロジェクトメンバーや日本 CRO 協会監査ワーキンググループリーダー等を務めています。

【臨床監査の仕事】2002 年から GCP 監査担当者として働いていますが、中でも治験実施医療機関に対する監査は重要な仕事の一つです。国内でのべ約 170 施設の監査を実施し、もちろん日大板橋病院や日大駿河台病院も監査させて頂きました。また両院以外にも桜薬会会員皆様ご在籍の医療機関に監査でお邪魔したかもしれず、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。国外では、中国、韓国、香港、タイ、ベトナム、シンガポール、マレーシア、インド、等の国々の治験実施医療機関や CRO 等の委受託業者等、合計約 30 回の監査を実施しました。

2020 年 2 月に Global Quality Assurance Conference（GQAC）という監査関係の国際会議が仙台で開催され、国内外の規制当局や QA 関連団体から約 1000 人の関係者が集まりました。私は日本 QA 研究会のパネリストとして登壇し、少しでも有意義なセッションにするべく尽力致しました。

【終わりに】薬剤師の仕事は今後様々な変化が予想され、私が勤務する CRO も就職先の選択肢の一つと考えて頂ける機会も増えて欲しいと心から願っております。臨床開発を直接担当した新薬が承認され、患者さんの健康に役立つという充実感は他ではなかなか味わえません。ところで最近私も患者の仲間入りをしてしまい、「健康のためなら死んでも良い」との強い覚悟で頑張っています。

私がこれまでこれらの仕事に携われたのも、何より最初にお世話になった日本大学の先生方のおかげであり、ここに改めて厚く御礼を申し上げます。

薬学部校友会（桜薬会）ホームページの ID

日本大学薬学部校友会ホームページの「校友会会則」・「求人・求職のコーナー」・「運営委員会資料」を見るのには ID とパスワードが必要です。

ID は宛名の下にある正会員番号の下 6 桁（半角）、パスワードは氏名（全角カタカナ）になります。ID・パスワードは毎年 10 月の末に一括更新しております。毎年 3 月に卒業された方は、10 月までは学生時の ID・正会員の ID どちらでも見られますが、それ以降は正会員の ID をお使いください。氏名の変更をお届けいただいた方は、10 月までは旧氏名となります。

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度について

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度は平成 22 年度通常総会で設立が承認されて、専用口座を開設し、校友会会員の方々からの募金及び薬学部校友会桜薬会会報広告掲載料を奨学金の原資としています。平成 23 年度から給付を開始しています。

薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度にご理解をいただきご協力いただきますようお願い申し上げます。

募金は下記口座にお願いいたします。

口　座：００１２０－５－３１８７３４

口座名：日本大学薬学部校友会奨学金

特集

真菌と深在性真菌症
ー基礎から最新のトピックまでー

病原微生物学研究室　教授　村山　琮明

はじめに

医真菌学の教育は現在日本の薬学部においては、重要視されていない。その理由は国家試験にほとんど出ないと言われることがある。しかし97回から104回の過去8年間で毎年出題され、第100回にいたっては4問も出題されている。しかし、微生物学の講義が終わっても真菌が真核生物であることすら認識さえされていない学生も多い。そこで本報では真菌の基礎知識からその感染症、特に深在性真菌症について概説し、また近年のトピックを紹介する。

Ⅰ　医真菌学の基礎

1）真菌とは

真菌は医学分野で細菌に対して言われる言葉で、他の領域では菌類という方が一般的である。真菌は、カビ（糸状菌）、酵母、およびキノコの総称である。一般の方々はカビという言葉で真菌すべてを表すと思っていることも多い。カビすなわち黴は、紀元100年頃にできたと言われている中国最古の説文解字という字書で、「黴、中久雨青黒也、从黒微省聲」と表している。すなわち雨が長く降って出てくる青黒いもので、黒という字と小さいという意味の微を省略したものを合わせた字とある。まさに長雨や風呂場で出てくる嫌われものである。この黴の字を使って、黴菌という言葉がある。これは真菌と細菌を表すものとされているが、キノコを表す字には「菌（キン）」、「蕈（ジン）」、「芝（シ）」、「耳（ジ）」、「椹（ジン）」茸（ジョウ、タケ）、「茯苓（ブクリョウ）」、「簟（タカムシロ、キノコ）」、「茸（フ、フキ、キノコ）など多くある。「菌」はまさにキノコを表すので、「黴菌」はカビ＋キノコ、すなわち真菌を意味する言葉である。当時、細菌は目に見えず認識されていない時代であることを考えれば納得がいく。

2）真菌の形態と特徴

真菌は、糸状菌（*Aspergillus, Trichophyton* など）と酵母（*Cryptococcus* など）そしてどちらの形も取る二形性菌（*Candida*、*Histoplasma* など）に分けられる。

ヒトと同様に真核生物であり、真核生物の持つ特性とともに、キチン、*β*-グルカン、マンナンタンパクなどを含む細胞壁を持つ、また細胞膜にはコレステロールではなく、エルゴステロールを含むなどの特徴がある（図1）。

3）真菌の生活環

真菌は真核生物であり、有性生殖と無性生殖を行う（図2）。しかし自然界ではほとんどが無性生殖で増殖を行っていると考えられている。増殖過程でできる子供を有性生殖の場合は胞子、無性生殖の場合は分生子と呼ぶ。有性胞子の形が特徴的でこの形によって分類されてきた。

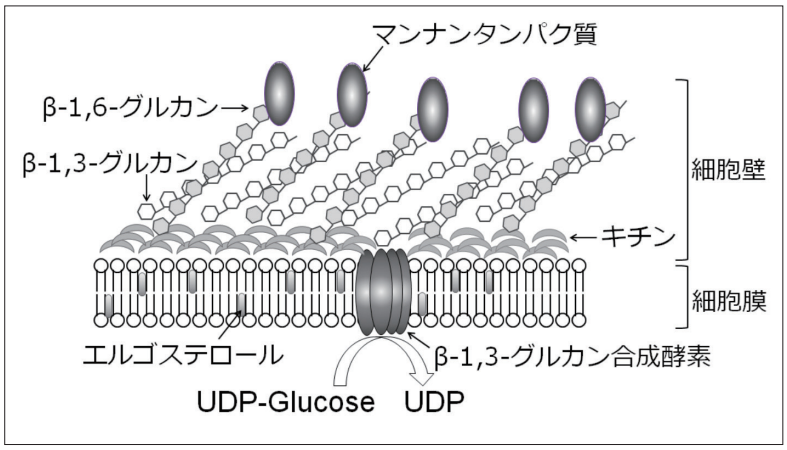


図1　真菌細胞壁の構造模式図

4）真菌の分類

真菌（菌類）は、目に見えるが動かないもの、すなわち三界説（Haeckel,

1886）の動物界、植物界、原生生物界の植物界に属すると考えられていた。1969年Whittakerの五界説でやっと真核生物の中で菌類として独立した。その後、DNAの塩基配列による分類が進み、リボソームの小サブユニットを構成するrRNAの遺伝子配列により、真核生物の中でも植物よりはるかに動物に近い存在であることが明示された。

真菌の分類は従来から有性胞子の形で子嚢菌門、担子菌門、接合菌門、ツボカビ門の4つに分けられてきた。このうちツボカビ門はヒトに病気を起こさないので、本報では省く。分子生物学的手法により接合菌門という分類が無くなり、接合菌症を起こす病原真菌のほとんどはMucor目に入るので、ムーコル症と呼ばれる（表1）。

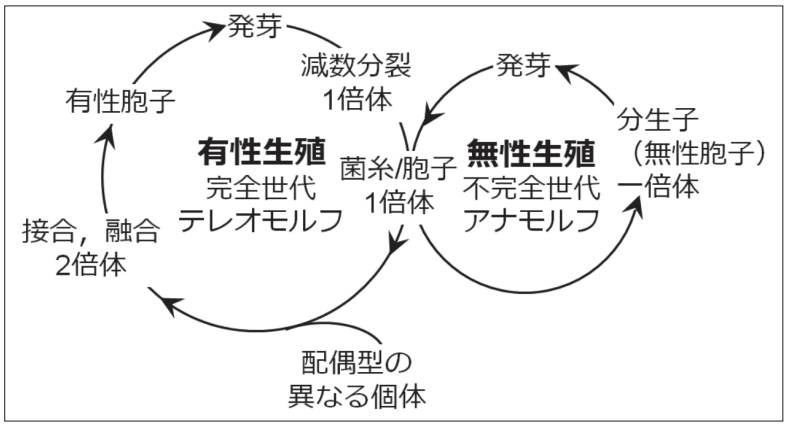


図２　真菌の生活環

表１　病原真菌の分類と主な病原真菌

新分類の門	旧分類の門（有性胞子）	病原真菌の属	疾患名
子嚢菌門 Ascomycota	子嚢菌門 Ascomycota（子嚢胞子）	*Aspergillus*	アスペルギルス症
		Candida	カンジダ症
		Trichophyton	皮膚糸状菌症
		Microsporum	皮膚糸状菌症
		Epidermophyton	皮膚糸状菌症
		Histoplasma	ヒストプラスマ症
		Coccidioides	コクシジオイデス症
		Sporothrix	スポロトリコーシス
		Fonsecaea	クロモミコーシス
		Fusarium	フサリウム症
		Pneumocystis	ニューモシスチス症
担子菌門 Basidiomycota	担子菌門 Basidiomycota（担子胞子）	*Cryptococcus*	クリプトコックス症
		Trichosporon	トリコスポロン症
		Malassezia	マラセチア症
ムーコル目 Mucoromycota	接合菌門 Zygomycota（接合胞子）	*Mucor*	ムーコル症（旧　接合菌症）
		Rhyzopus	
		Rhyzomucor	
		Cuninghamella	
		Absidia	

Ⅱ　真菌感染症

真菌が起こす感染症を真菌感染症（真菌症）といい、その感染部位により表在性（浅在性）真菌症、深部真菌症、と深在性真菌症（内臓真菌症）の3つに分けられる。深在性真菌症は内臓真菌症ともいわれるように脳、肺、肝臓、腎臓などの臓器に感染を起こし、時に敗血症など全身に感染が及ぶため、播種性（全身性）真菌症とも呼ばれる。表在性真菌症と深部真菌症のほとんどは皮膚真菌症である。本報では主に深在性真菌症について述べる。

また輸入真菌症は、本来日本には常在しない真菌による感染で、海外で感染し日本国内で感染が診断された感染症をさす。

1）世界の真菌症

世界の真菌症患者は12億人、世界の新たな重症真菌患者（年間）は3億人、そして真菌症による世界の年間死亡者は166万人と推定されている。世界のマラリアおよび結核による世界の年間死亡者はそれぞれ60万人および154万人に較べても勝る数字である[1) 2)]。それにも関わらず真菌症が重要視されていないのは、多くの重症真菌症は、AIDS、がん、移植、喘息など他の疾患に隠されている、neglected disease（顧みられない病気）だからである。各種真菌症の頻度と死亡率を表2に示した。

表２　世界における日和見侵襲型真菌症の頻度と死亡率[3)]

感染症（最も多い菌種）	重篤な感染患者数/年	死亡率（感染者における%）
アスペルギルス症 *Aspergillus fumigatus*	>200,000	30-95
カンジダ症 *Candida albicans*	>400,000	46-75
クリプトコックス症 *Cryptococcus neoformans*	>1,000,000	20-70
ムーコル症 *Rhizopus oryzae*	>10,000	30-90
ニューモシスチス症 *Pneumocystis jirovecii*	>400,000	20-80

2）日本の深在性真菌症

日本は、湿度が高く、近年亜熱帯地域といっても良いほどに気温の上昇がみられる。真菌は一般的に①湿度80％

以上、②気温 25 ～ 30℃、そして③栄養分豊富、であることを好むことから、カビ天国日本と言っても過言ではない。しかし、幸いなことに日本における深在性真菌症は、糖尿病、火傷、免疫抑制薬の使用、移植医療の確立などの免疫不全患者にみられる日和見感染症、すなわち健康な人では感染症を起こさないような病原性の弱い真菌が原因で発症するものがほとんどである。近年、高度医療の増加そして高齢化に伴い、その頻度は益々増加している。

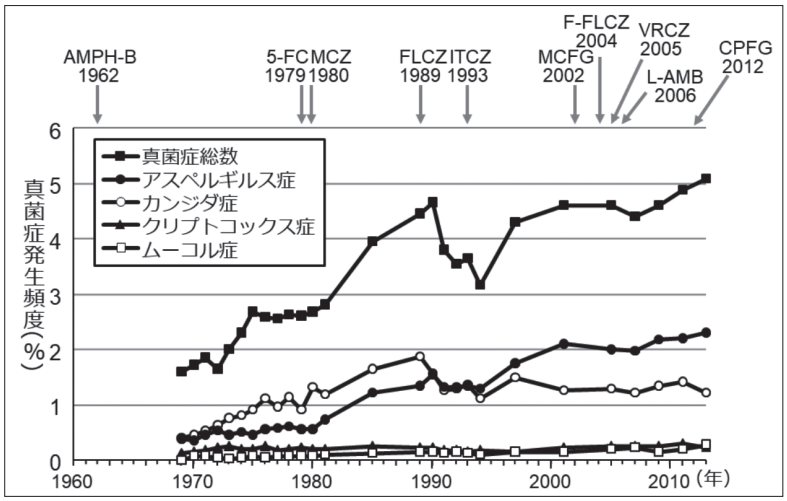


図３　剖検総数に対する内臓真菌症の経年的発生頻度と抗真菌薬の登場
文献４）-7）のデーターから作成した。

日本の３大真菌症は、アスペルギルス症、カンジダ症、そしてクリプトコックス症である。近年カンジダ症は、病理解剖からの集計によると第一位の座をアスペルギルス症にあけ渡したが（図 3)、最も注意すべき真菌症であることは間違いない。*Candida* 属はヒトの常在菌として、口腔、腸管、膣、皮膚などに存在するため、完全に取り除くことは難しく、ヒトの抵抗力が落ちた時に、起因菌となって真菌症を発症するからである（内因性感染)。カンジダ属以外にも人体には意外なほど真菌が多く常在している。

日本で見られるその他の真菌症原因菌は、大気中や土壌に存在するものがほとんどである（表 3)。そのため、空気中に浮遊している胞子などを吸引して、副鼻腔や肺に定着し、感染するのが通常である。そのほとんどが日和見感染として易感染患者に感染する。

表３　日本でみられる主な深在性真菌症

真菌症	侵入経路	病態	主要起因菌	形態
カンジダ症	常在菌 (口腔，膣，腸管，皮膚) 内因性感染	カンジダ血症 →腎，肝，眼内炎など全身	*Candida albicans*	二形性
アスペルギルス症	大気（腐生菌)	肺炎 →中枢神経，全身	*Aspergillus fumigatus*	菌糸
クリプトコックス症	大気，トリ（ハト)	肺炎 →髄膜炎，全身	*Cryptococcus neoformans*	酵母，莢膜有
ムーコル症 (接合菌症)	大気（腐生菌)	肺炎，鼻眼脳，消化管，皮膚，播種性	*Mucor 属*， *Ryzopus 属*	菌糸
ニューモシスチス症	大気 常在菌（肺)	肺炎	*Pneumocystis jirovecii*	酵母

Ⅲ　話題の真菌症

1）*Candida auris*

本菌の特徴は、①多剤耐性菌が多い、②　アウトブレイクを起こす、③強い病原性、④他の *Candida* 属菌種と誤同定される、があげられ、他の日和見感染の *Candida* 属菌種とはかなり異なる。

2009 年に帝京大学の佐藤および槇村等が日本で新種として報告した[8)]。2005 年東京で外耳道浸出液から検出された菌株だった。2015 年 4 月～ 2016 年 7 月に UK の ICU で拡がり、ICU が閉じられた。2016 年 6 月、CDC は「患者から検出される *C. auris* を監視するように」と警告した。日本では 2018 年に東京女子医大で中耳炎から分離した株が第 2 例目の報告であったが[9)]、幸いなことに流行はない。2019 年 3 月 31 日現在､患者数は 1,123 人 USA で報告されている[10)]。2018 年の報告では 377 例中 291 例、77% がカンジダ血症として報告されている。

薬剤耐性は、2017 年の報告では、93% FLCZ, 54% VRCZ, 35% amphotericin B, 7% echinocandin, 6% flucytosine 耐性で 41% の菌株が 1 つ以上の抗真菌薬に耐性とある。そのため CDC ではキャンディン

系薬剤が侵襲性 *C. auris* 感染症の治療として推奨されている[11]。

2）膵臓がんとマイコバイオーム（真菌叢）

微生物のマイクロバイオーム（微生物叢）が腫瘍など種々の疾患に関連しているとの報告がある。今回紹介するのは、真菌が膵管腺がん（PDA）の増殖を促進させるという報告である[12]。PDA は致命的ながんで、通常の全生存期間は診断後 6 か月である。ヒトやマウスモデルの PDA 腫瘍で正常な組織と比較して、真菌が約 3,000 倍増加していた。真菌は蛍光標識した真菌の解析で腸管腔から Oddi 括約筋により膵管を通して膵臓組織に移動していた。

膵がんおよび非膵がんのマウスモデルおよびヒトの腸管（便）のマイコバイオーム組成の解析で、ヒトとマウスモデルどちらでも *Malassezia* 属菌種が顕著に多かった。*Malassezia* 属菌はふけや癜風の原因菌でヒトの皮膚の常在菌である。マウスモデルで amphotericin B 治療で真菌を除去すると 30 週後の腫瘍量は 20 ～ 40％減少し、PDA 形成に先行する胆管異形成も 20 ～ 30％抑制された。*Malassezia globosa* を再定着させるとがんの増殖が見られたが、*Candida*、*Aspergillus* 属菌種および *Saccharomyces cerevisiae* では腫瘍形成に対する影響はみられなかった。また、真菌を除去すると、抗がん薬のゲムシタビンの増強作用が認められた。

真菌の腫瘍形成に及ぼす作用が、補体カスケードの活性化を介していることも示された。マンノース結合レクチン（MBL）は真菌壁のグルカン糖鎖に結合してこの経路を活性化するが、腫瘍外領域での MBL または C3 を欠損させるか、腫瘍細胞内で C3aR をノックダウンすると腫瘍増殖が抑制された。また、MBL または C3 欠損マウスでは、真菌叢の再定着による PDA の進行が見られなかった。さらに、*Mbl*（別名 *Mbl2*）あるいは C3 の欠損マウスでは、マイコバイオームの再形成は PDA を進行させなかった。

これまでに細菌が PDA の膵臓内で 1,000 倍多いという報告があったが、マイコバイオームが PDA の形成に関与するという初めての報告で、今後 PDA の治療に繋がる研究といえる。

3）真菌血症とマイコバイオーム

Candida 属菌種は日和見感染症の起因菌で、皮膚や腸管、膣、上気道粘膜などの常在菌である。血流感染症の起因菌としては 4 番目に多い。その経路としてはカテーテル関係が一番疑われる。同種移植患者において、移植後に血液培養で陽性になる前に糞便中の *Candida* 量が増加していることを便の比較ゲノム解析により明らかにした[13]。腸管内に *Candida* が多いと細菌の量と細菌菌種の多様性が少なくなっていた。また、血液培養で検出された *Candida* 菌株と腸管内で増殖している菌株は遺伝的にほぼ同一であることが示され、腸管からの translocation が真菌血症に先行していることを示した。この様な高リスク患者における先制治療（preemptive treatment）の妥当性を支持している。

Ⅳ　真菌と災害

1）中越地震後にみられた organic dust toxic syndrome（ODTS）[14]

2004 年 10 月 23 日に新潟県中越地震が発生した。11 月 9 日：操業停止中のエノキダケ栽培工場の復旧作業に、22 名のボランティアが従事していた。停電のため工場内の換気扇、エアコンは すべて停止し高温多湿状態にあった。緑色のカビが異常繁殖し腐ったエノキダケが散乱するとともに、視界がぼやけるほどの粉塵が空気中に舞っていた。ボランティアらは、薄い紙のマスクを着用し、9 時から 16 時まで腐敗したエノキダケの搬出作業を行った。作業終了時にはマスクの内側や鼻腔まで真っ黒になっていた。

22 名のうち 1 例が侵襲性肺アスペルギルス症を発症した。死亡した本症例から *Aspergillus fumigatus* が分離されている。その他の 21 名（男性 16 名、女性 5 名、平均年齢 40.0 ± 13.0 歳）のボランティアのうち屋内で作業をした 20 名全員に何らかの症状（発熱、全身倦怠感、頭痛、関節痛、腹痛、咳嗽、喀、呼吸困難、胸痛）を認めた。屋外作業のみ行った 1 名は無症状であった。屋内で作業していたボランティアは、大量の有機粉塵（ODTS）を吸い込んだために発症したと考えられる。

2）東日本大震災で津波肺患者にみられたスケドスポリウム[15]

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の津波で溺水した患者にみられた症例である。岩手医大病院救急科に、震災から 1 週間で 5 例、4 月下旬に 1 例の重症の津波肺患者が搬送された（2 ～ 82 歳）。真菌の診断に用いられる（1 → 3）- β -D- グルカンが高値だった。

治療は抗菌薬とシベレスタットを投与し、炎症が治まらない場合にステロイドパルス療法を追加するといった方針で行ったが、結果的に4人が死亡、1人は四肢麻痺が残存、回復退院したのは1人のみだった。

これらの症例から分離された *Scedosporium* 属菌種は環境中に存在する腐生菌で、免疫不全の易感染患者にまれに感染する菌種である。

まとめ

真菌症はけっして少なくない疾患であるにも関わらず、その実態が周知されていない。培養に時間がかかり、判定には専門的知識を要すること、血清診断も全菌種に応用できるものではなく、まして個別に菌種を判断できるものは少ない。抗真菌薬も数が少なく、高齢社会、グローバル化、高度医療の発達などに伴って、真菌症は益々問題視されるであろう。真菌症の重要性を認識していただきたいと願っている。

参考文献

1）Denning DW *et al.* Science. 2015; 347: 1414-1416
2）Global action fund for fungal infections（www.gaffi.org.）
3）Brown GD, 2012; Sci Trans Med. 4（165）:165rv13
4）Suzuki Y *et al*. Med Mycol J. 2018; 59（4）:E53-E62
5）Suzuki Y *et al*. Med Mycol J. 2013; 51（5）:522-526
6）Suzuki Y *et al*. Med Mycol J. 2015; 56（3）:J99-J103
7）Kume H *et al*. Med Mycol J. 2011; 52（2）:117-127
8）Satoh K *et al*. Microbiol Immunol. 2009; 53（1）:41-44
9）Iguchi S *et al*. Jpn J Infect Dis. 2018; 22;71（2）:174-175
10）https://www.cdc.gov/drugresistance/pdf/threats-report/2019-ar-threats-report-508.pdf
11）Lockhart SD. Clin Infect Dis. 2017, 64:134-140
12）Aykut B. Nature. 2019; 574:264-267
13）Zhai B. Nat Med. 2020 Jan 6. doi: 10.1038/s41591-019-0709-7
14）川崎 聡　他。日呼吸誌 , 2012; 1: 287-293
15）畠山裕司　他。日本臨床微生物学雑誌 , 2012, 22: 35-43

略歴

学歴：　日本大学理工学部薬学科卒業
　　千葉大学薬学研究科総合薬品科学専攻修了（薬学博士）

職歴：　東京大学付置医科学研究所・教務補佐員
　　明治薬科大学薬学部微生物学教室・助手
　　帝京大学医学部細菌学講座（現微生物学講座）・助手、同・講師
　　北里大学大学院感染制御科学府＆北里生命科学研究所、感染情報学研究室（病原微生物分子疫学研究室）・講師
　　日本大学薬学部分子細胞生物学研究室・准教授
　　日本大学薬学部病原微生物学研究室・教授（現在）
　　東邦大学医学部・客員講師
　　千葉大学真菌医学研究センター・非常勤講師
　　北里大学薬学部・非常勤講師

学会活動　日本化学療法学会・評議員（現在）
　　日本医真菌学会・代議員（現在）
　　日本薬学会、日本細菌学会、日本感染症学会、日本病理学会、国際真菌学会・会員（現在）

その他　文部科学省　科学技術・学術審議会専門委員（現在）

生涯教育講座のご案内（令和２年度）

令和２年度の生涯教育講座の日程をご案内します。最新の開催情報はホームページに掲載します。開催場所等が変更になる場合がございますので、ホームページにて必ず御確認ください。
http://www.pha.nihon-u.ac.jp/longlife-learning.html/　（この頁の右下の QR コードをご利用ください）

【最近のトピック】年６回開催（平日）　１回１単位、受講料 1,000 円

場　所：船橋市民文化創造館（きららホール）（〒 273-0005　千葉県船橋市本町 1-3-1　フェイスビル６階）
最寄駅：ＪＲ中央・総武線　船橋駅

令和２年５月 22 日（金） 19 時 30 分～ 21 時 00 分	第 187 回	**演題：分子標的治療の基礎知識（仮）** 日本大学薬学部　分子標的治療学研究室 准教授　片山　和浩　先生
令和２年７月１日（水） 19 時 30 分～ 21 時 00 分	第 188 回	**臨床で役立つ PK/PD 初歩の初歩** 日本大学薬学部　薬剤師教育センター 教授　辻　泰弘　先生
令和２年９月 15 日（火） 19 時 30 分～ 21 時 00 分	第 189 回	**緊急避妊、避妊法について（仮）** 東部地域病院産婦人科 宮国　泰香　先生

第 190 回　令和２年 10 月 21 日（水）　　第 191 回　令和３年１月 19 日（火）
第 192 回　令和３年２月 25 日（木）

【ファーマシューティカルケアの最前線】　５回開催（日曜）　１回３単位、受講料 2,000 円

場　所：日本大学桜門会館　（〒 102-0076　東京都千代田区五番町 2-6）最寄駅：ＪＲ中央線　市ヶ谷駅
時　間：13 時 00 分～ 17 時 50 分
開催日　　令和２年５月 24 日（日）　　令和２年７月５日（日）
　　令和２年９月 13 日（日）　　令和２年 11 月 15 日（日）
　　令和３年２月 14 日（日）

【薬剤師実践セミナー】　１回３単位、受講料 5,000 千円。スキルを身に付ける参加型セミナーです。
令和２年度は、以下のテーマで２回開催します。

テーマ：患者の心に寄り添う薬剤師になろう！～認知行動療法的アプローチによる服薬支援～
講　師：日本大学薬学部　教授　渡邉 文之 先生
　　認知行動療法的アプローチによる服薬支援研究会／株式会社カメガヤ（フィットケアデポ）
　　田沼 和紀先生、前田 初代 先生
時　間：10 時 00 分～ 17 時 00 分（予定）
日程・場所：　令和２年５月 17 日（日）：日本大学薬学部
　　令和２年 11 月 29 日（日）：日本大学桜門会館

【大学院（土曜）講義受講コース】　７回（２日間）開催　２日間で８単位、受講料１万円

時　間：９時 00 分～ 16 時 10 分
場　所：日本大学薬学部
開催日　令和２年４月～ 12 月の土曜日に開催予定

問い合わせ先：日本大学薬学部薬剤師教育センター
TEL:047-465-3895
FAX:047-465-2384

研 究 室 だ よ り

機能形態学研究室（3 号館 1 階 315）

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面で御活躍のこととお慶び申し上げます。機能形態学研究室の近況をお知らせ致します。現在、研究室は木澤靖夫教授、助教の私（木村）の教員 2 名で教育・研究活動に取り組んでおります。卒業研究生は、6 年生 14 名、5 年生 13 名に加え、4 年生 8 名が配属されており、さらに研究員 1 名と合わせて、総勢 38 名の大所帯となりました。

昨春には、研究室旅行として栃木県那須塩原市にある千本松牧場に行き、BBQ、動物達と触れ合える牧場の散策、また、御菓子の城にてハーバリウム体験を楽しみました。6 年生は学業に励むべく不参加となり、5 年生のみの参加となりましたが、天候にも恵まれ、充実した 1 日を過ごして参りました。その 6 年生においては、6 月に開催された卒業研究発表会で、研究成果についてポスター発表を行いました。そして、この発表会での活発な討論を反映させた卒業論文も無事提出されました。本原稿執筆段階では卒業試験も終了しており、国家試験に向けて最後の追い込みに奮闘しております。また、4 年生は全員 OSCE 及び CBT に合格し、卒業研究と昨年度から 4 期制となった実務実習に向けて準備しております。

年明けの 1 月 4 日には、都内にて約 10 年ぶりとなる研究室の同窓会を開催いたしました。新年早々にも拘わらず、総勢 73 名もの卒業生が参加（1 期生の方々においては全員集合！）し、旧交を温めあいました。また、現卒研生と諸先輩方の世代を超えた交流も盛んに行われ、あっという間に 2 時間が過ぎ、お店のご厚意で 2 次会もそのまま行わせていただきました。今後は定期的に開催する予定ですので、今回参加できなかった方など多くの皆様のご参加をお待ちしております。最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

（木村元気　記）

生化学研究室（3 号館 2 階 321）

桜薬会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。生化学研究室の近況をご報告いたします。

研究室は、現在、小林俊亮教授と大橋祥世専任講師、田中の教員 3 名、6 年生 12 名、5 年生 14 名、4 年生 12 名で日々勉学・研究に励んでおります。2019 年度の前半では、6 年生は 6 月の卒業研究発表会や 7 月の第 1 回目の総合講義試験があり、5 年生はⅠ期とⅡ期の実務実習を行いました。様々なことを経験し、楽しいことばかりでなく大変だったこともあるようですが、それらを乗り越えて皆大きく成長したように感じます。8 月には研究室旅行で、近年の恒例となっている屋形船でお台場の綺麗な夜景と美味しいご馳走を楽しみながら、後半を乗り切るための英気を養いました（写真は屋形船で撮ったもの）。9 月からは新たに 4 年生が配属されました。4 年生が加わることで 5 年生は先輩としての自覚が芽生え、研究に対する姿勢や研究室での振舞い方にも変化が見られました。この二つの学年が合わさることで、今後研究室の色がどのようになるのか楽しみなところであります。本稿執筆時点で、6 年生は国家試験に向けた猛烈な追い込みをかけており、皆薬剤師としての将来を切り開くために必死になっています。この努力が実を結び、それぞれの希望する場で 4 月から新たなスタートが切れることを切に願っております。皆様には、新社会人となった後輩たちを、温かいご指導を通して一人前に導いていただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（田中　融　記）

薬剤学研究室（3 号館 4 階 341）

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面で益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

薬剤学研究室の近況を報告致します。現在、薬剤学研究室は鈴木豊史教授、金沢貴憲専任講師、鈴木直人の教員 3 名、大学院生 2 名（D2 福田光良君、D1 藏野匠君）、6 年生 13 名、5 年生 14 名、4 年生 12 名で活動しています。2017 年度より、当研究室は「鼻から脳への薬物送達（Nose-to-Brain デリバリー）というテーマのもと、鋭意研究に取り組んでいます。今年度は、これまでの研究活動の成果を、国内外の学会で精力的に報告してきました。なかでも、日本薬学会 第 139 年会では 6 年生の長友太希君がポスター優秀発表賞、日本薬剤学会第 34 年会では金沢講師が、薬剤学分野の将来を担うことが期待される研究者に贈られる日本薬剤学会奨励賞、6 年生の浅見亜紀子さんが永井財団学部学生七つ星薬師賞を、それぞれ受賞しました。これらの受賞は研究室メンバーに刺激を与え、新たな知見を常に発信できるよう精力的に研究を進める所存です。

昨年度 5 月に研究室メンバーの懇親を目的とした研究室旅行が開催され、群馬の地を訪れました。学内行事の関係で日帰りという旅程になりましたが、世界遺産登録された富岡製紙工場、こんにゃくパーク、群馬サファリパークを巡り、大いに親睦を深められたと思います。

新体制となって 3 年が経過し研究室の様子も大分様変わりしましたが、近くにお立寄りの際はお気軽に研究室へご訪問頂けたら幸いです。また、ホームページ（http://yakuzai.pha.nihon-u.ac.jp/）も随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます.

（鈴木直人　記）

医薬品評価科学研究室（5 号館 2 階 525）

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。

医薬品評価科学研究室の近況をお知らせ致します。令和２年４月現在、日髙慎二教授、専任講師の荒川基記の２名の教員と、社会人大学院生３名、卒業研究生６年生８名、５年生８名、客員研究員１名が所属して頑張っております。3 月に卒業しました卒業研究生もそれぞれ希望した道で頑張っていることと思います。

卒業研究は、酸化マグネシウム製剤の適正使用、過活動膀胱に対する治療の満足度調査、高血圧治療薬の実態調査、糖尿病治療薬の薬効評価、加工食品の減塩表示に関する検討、減塩評価に関するデバイス評価など多岐にわたっており、個々のテーマに沿って日々頑張っております。これから、６年生は研究成果を卒業研究論文としてまとめるとともに、就職活動や薬剤師国家試験に向けた取組みが本格化します。卒業研究発表会に向けて用意周到に準備しているところでもありますので、引き続き充実した学生生活を送れるよう一緒に関わっていきたいと考えているところです。

研究室旅行は昨年６月１日から１泊２日で軽井沢に行ってまいりました。幹事の用意周到な計画のおかげで、陶芸や蕎麦打ち、旧軽井沢散策からショッピングに至るまで楽しい時間を過ごしました。教員、卒業研究生が十分に親睦を深めることができたと思います。

先輩 OB・OG の皆様におかれましては、学生が実務実習生として病院・薬局へと伺っていると思いますが、引き続きご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

（荒川基記　記）

健康・スポーツ科学研究室（6 号館 1 階 616）

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面において益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。健康・スポーツ科学研究室の近況についてお知らせ致します。

所属研究室員は、進藤専任講師と私小沼の 2 名で日々教育と研究に励んでおります。1 月現在、3 学年合わせた卒業研究生は 12 名（男子 8 名、女子 4 名）が所属しておりますが、6 年生は国家試験に、5 年生は実務実習と卒業研究に、4 年生は実務実習の準備にと、各学年それぞれの目標に向かって日々取り組んでおります。

さて、少し前のお話になりますが、一昨年の 10 月 27 ～ 28 日に静岡県の修善寺周辺に行って参りました。1 日目は体育館を借りてバスケットボールや卓球、バドミントンなどで汗を流し、2 日目は修善寺を観光するなど、当研究室らしい卒業研究研修旅行で非常に楽しいひと時を過ごすことができました。今年の 2 月には新たに向かい入れた卒研生とともに草津温泉に行く予定です。卒研生たちにとって親睦を深める良い機会となることを期待しています。また、1 年を通して定期的に懇親会を開催していますが、忙しいなか多くの卒業生が参加してくれました。懇親会以外でも時間を作って研究室に来てくれた卒業生もいます。病院・薬局・ドラッグストア・企業など、多方面で活躍している卒業生の話を聞けることを非常に嬉しく思います。

最後になりましたが、本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、会員皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（小沼直子　記）

研究室同窓会

第 40 回薬品分析学研究室同窓会開催報告

第 40 回薬品分析学研究室同窓会が令和元年 11 月 17 日（日）午後 1 時から JR 東京駅近くのアリスアクアガーデン東京丸の内で行われました。出席者は会員 16 名、研究室教員 3 名、卒業研究生 16 名の総勢 35 名でした。

まず、第 1 部総会では、開会の辞が会長の大竹富治氏（31 期）から述べられ、岸田邦雄氏（14 期）により会計報告、奥山努氏（31 期）により会計監査報告が行われました。その後、小林郁夫氏（10 期）と岸田邦雄氏に記念品が贈呈されました。両氏は長年にわたり研究室同窓会の活動を先頭に立って推進され、その活性化に尽力されると共に薬品分析学研究室を物心両面から支援されるなど多大な貢献をされました。今後は大所高所からご指導を戴きたいと思っております。終わりに、大竹会長から閉会の辞が述べられました。

次に、集合写真を撮影した後、第 2 部懇親会では、大竹会長のご挨拶に続き、卒業研究生を代表して 5 年の東亮介君が乾杯の挨拶を行いました。しばらく歓談した後､1 人 3 分程度で近況報告を行いました。同門ではあっても一人として同じ人生を歩むことはなく、重ねる年輪の形が皆違っていることに改めて実感させられました。後に続く学生達にとっても何気なく語る先輩の話に来るべき自らの姿を思い描かずにはいられなかったのではと感じられました。その後、私（四宮）が研究室の近況報告を行い、更に余興として、4、5 年生によるイントロクイズが行われました。和やかな雰囲気のうちに会も進み、小林郁夫氏からご挨拶を戴いて中締めとなりました。終了後、東京駅地下街で二次会を行い、楽しくも懐かしい時間が過ぎました。核家族化が定着し、インターネットが普及した現代では、人との繋がりが希薄になりがちであり、世代を超えた交流は一層重要になると思われます。今後ともご支援、ご参加を賜わりますようお願い申し上げます。

（四宮一総　記）

地区支部・職域支部だより

第 51 回東桜会開催報告

令和元年 11 月 7 日（木）に東京支部（東桜会）の 51 回目の研修会が日本大学桜門会館にて開催され、30 名が参集しました。

薬学部校友会の内倉会長よりご挨拶をいただいたのち、長年にわたり当会の設立と運営にご尽力いただきました澤地次雄先生（4 期）に感謝状をお贈りしました。本会の設立にあたりご苦労されたというお言葉と、会の発展と継続がしっかりと結びつけられていると改めて思いました。

さて、今回は「診療支援センターの業務と薬薬連携への展望」という研修テーマで、日本大学医学部附属板橋病院薬剤部の今井徹先生にご講演いただきました。板橋病院では多くの薬剤師が病棟毎に配属されており、朝の時間帯にやってくる医師と意見を交換し回診に同行することが日常の光景となっているとのことで、スタッフの一員として信頼を得ている様子を伺い知ることができました。そして、2018 年から稼働している診療支援センターは、予約の有無に関わらずほとんど滞ることもなく対応しており、他のスタッフとともに患者さんの入院前から退院後までを見据えた安全に寄与されていることが分かりました。また、各診療科のコンセンサスを得て手術前の投薬ルールを定めたことなどの貴重なお話しも聞くことができました。

当会は平成元年に設立され、日本大学薬学部校友会の支部活動として研修会と幹事会を継続しております。このような校友会の研修会に参加することは、知識の習得だけでなく同窓生の活躍を間近に共有できる良い機会にもなっています。気軽に参加していただける会にしたいと考えております。特に次世代の皆様の出席を心待ちにしておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

（小松崎康文　記）

【連絡先】
東京支部（東桜会）会長　小松崎康文（41 期卒）
日本大学松戸歯学部付属病院
komatsuzaki.yasufumi@nihon-u.ac.jp

山形県支部総会

日本大学薬学部校友会（桜薬会）山形県支部令和元年度総会・懇親会が、令和元年 12 月 14 日ホテルメトロポリタン山形を会場に、日本大学薬学部校友会の内倉和雄会長をお迎えして開催されました。
山形県支部の総会は、諸事情により 3 年ぶりの開催でしたが、10 月で大石田町長を退任された庄司先輩も加わり、会計報告・協議等を滞りなく終了し、懇親会は和気藹々の雰囲気のなかで、懐かしい学生時代の話題や、当時の先生方の思い出、支部活動の課題など話が弾み、楽しく有意義な時間を過ごすことが出来ました。

山形県支部では、昨年からは医学部校友会、歯学部・松戸歯学部校友会の懇親会に、薬学部校友会も仲間に加えていただき、三師会として連携を強めています。昨年の 6 月 29 日には、2 回目の情報交換会が山形グランドホテルで開催され、日大医歯薬同窓生との交流が円滑に進んでいます。
来年は薬学部校友会が三師会の幹事となるため、楽しく意義のある会にしようと、いろいろと計画を練っているところです。

私、遠藤は、今年度の総会において、山形県支部長の任を仰せつかることなりました。桜薬会のみなさま、どうぞよろしくお願い致します。（遠藤尚登　記）

薬学部校友会山形県支部長
遠藤　尚登（えんどう　なおと）
理工学部薬学科　昭和 55 年卒
有限会社イーエムコーポレション代表取締役

第 43 回桜神会

令和２年１月９日（木）、ホテルキャメロットジャパンにおいて、恒例の第 43 回桜神会が開催されました。当会は神奈川県内の医療機関に勤務する病院薬剤部（局・科）長に加え、調剤薬局に勤務する薬局長、若手の薬剤師と様々な先生方に参加していただいております。最近では幅広い年代の同窓生からもご出席いただき、世代を超えた貴重な情報交換の場にもなっております。

来賓挨拶では日本大学薬学部の荒川基記先生（医薬品評価科学研究室）より大学の近況について、興味深い話題をご提供いただきました。引き続き菅野圭介先生（川澄化学工業株式会社）のご発声による乾杯に続き、ご歓談となりました。

桜神会の開催に先立ちまして、学術講演会を行っております。本江純子先生（菊名記念病院 循環器センター 循環器センター長）より「血管内イメージングで見る冠動脈硬化」という内容のご講演をいただき、血栓形成のメカニズムやプラーク破綻の原因など、血管内超音波検査（Intravascular Ultrasound：IVUS）を始めとした様々な映像を用いた説明が行われました。更に臨床研究の結果を示しながらの解説は、トリグリセリドなど中性脂肪管理や LDL コレステロール管理の重要性を具体的に再認識することができました。今年度も新年の恒例となりました小串興平先生（高島平中央総合病院）、蛭田剛俊先生（ライム薬局）による日大節が披露され、参加された多くの先生方が昔を思い出し、大合唱する姿はとても印象的でした。

神奈川県在勤、在住の先生方には今後も積極的なご参加をお願いいたしまして、第 43 回桜神会のご報告とさせていただきます。（岡添　進　記）

桜神会に関するお問合せは

桜神会　会長　赤瀬　朋秀（日本経済大学　経営学部・大学院　教授　t-akase@tk.jue.ac.jp）まで

桜の木の下で

第七期生同期会報告

令和元年10月27日（日）午後1時、銀座アスターお茶の水賓館（新お茶の水ビル21階）に於いて、第七期生同期会を開催しました。今回は内倉和雄薬学部校友会会長をお迎えして、同期生19名が集いました。田中孝治氏による記念撮影後、諏訪佐智子さんの司会により、2月に逝去された豊田明氏はじめ鬼籍に入られた同期仲間のご冥福をお祈りしました。

この度は大型台風19号の影響でしょうか、前回より参加者が少なく、少々残念な思いがありました。しかしながら、私達にとって令和元年は記念すべき傘寿の年。中居慶一氏の乾杯の音頭で会が始まりました。人生百年時代と言われる今、「傘寿・・・なんの未だまだ役に立つ」と皆さん益々お元気で、話が盛り上がります。全員で近況を語り合いながら、お互いに元気を貰い、エネルギーに満ちた貴重な時間を共有することが出来ました。続きは、同ビルの地下街の居酒屋「山葵」に席を移しました。

なお、今回参加された方は青木千勢子、池田梅子、石川春恵、伊藤善明、上田民恵、川生洋子、黄川田幸正、小山征治、鴫原幸子、諏訪佐智子、高澤克昌、田中孝治、中居慶一、長谷川順子、久田三郎、藤原英明、町田實、安田園子（敬称略）の皆様です。

（藤原充雄　記）

日本大学理工学部薬学科 20 期同窓会

2019. 8.24　東京ガーデン―パレス

毎回、幹事は良縁の男女８名。今回の出席者は全国から 70 名と来賓の謹直な内倉和雄先生、愛すべき渡邊和子先生

４～５年おきに開催してますが、今回は、原則ハガキを出さずにメール、ラインなどネット拡散して参加者を探索、発掘しました。

幹事一同、人生最後の会（？）を意識しながら準備会と名付けて飲み語りました。

今回もコンセプトは、「日本一の同窓会」＆「あなたが来ないと始まらない」です。

我が同窓会は思い出だけを回想するのではなく新たな思い出創りも企画します。

会は、残念にも亡くなった仲間と教授への「黙祷」そして病気と戦っている仲間への「励まし」から始まります。「1970 年代の世相イントロクイズ 100 問」では頭ではわかっているのに言葉に出ないもどかしさを。「当時の青春ヒットソングの前半後半 10 曲メドレー」では、一気に会場が沸騰しました。「今だから、当時の悪事を白状して懺悔もします」では、記憶が 50 年前に飛びました。「今日の私の健康法」では、その自己啓発、心がけに新鮮な刺激を受けました。

３時間、燃え尽きるまで、叫んで、笑って、語って我を忘れ、年を忘れて飲みました。いつになっても気になる男と女。あの頃の面影の残る男と女。未だに誰だか全くもってわからない男と女。

今回、驚いたことは、いまだ８割の方が何らかの仕事に、従事されていることです。やはり薬剤師免許は実に偉大でした。又、会を重ねるにあたり、これから先の生き方を学べる機会としてお世辞でも褒められると嬉しいものです。

「あの素晴らしい愛をもう一度」このメンバーで又、歌いたい。次の同窓会があれば、古希を迎え元気な顔で再会をお祝いしたいものです。　（幹事一同　記）

26-30 期（昭和 52-56 年卒）同窓会記

令和元年 9 月 15 日　東京　西荻窪にて第 3 回 52-56 同窓会が開催されました。

幹事の挨拶から 4 年間お世話になった渡辺和子先生、山之内盛先生、安川憲先生、草間貞先生、草間國子先生に御出席いただき 38 年前の時間に戻っていきました。

開演とともにそこかしこで 18-22 に戻った学生たちが当時の話や、還暦を迎えてからの再出発の話に花を咲かせました。お世話になった先生方のスピーチに耳を傾け 8 号館や北習志野に通った当時の初々しい気持ちに戻った気がいたしました。

52-56 回は 3 回目を迎え 100 人、80 人、60 人と少し減少いたしましたが北習志野時代から当時流行のコンパを企画すると宴会場に入りきれないくらい参加者があふれ仲の良い仲間たちでした。38 年たった今もその絆はそこかしこに伸びていました。38 年経っても変わらない風貌ですぐに記憶が戻りました。

次回の代表幹事に小森谷　友宏、幹事に金成　俊英、梶原加恵子、事務局に木下真由美を選出し閉会となりました。

あとがき

今回は日時、場所は前代表幹事長が探して決めておいてくれました。しかし病魔に侵され準備不足になってしまいました。後を託された仲間たちが返信なしのはがき、そしてラインを活用して何とか連絡がつく方法を探して開催となりました。同級生の絆はとても強くそして遠くまで伸びていました。天国に旅立ってしまった同級生たちにもきっと届いたと確信しています。次回は 3 年か 4 年先かまだ決定していないけれどまた、とんでもない便りが届くと思っています。その時タイムトンネルは開きます。

（小森谷友宏　記）

52-56 日本大学理工学部薬学科同窓会　令和元年 9 月 15 日　於　西荻窪こけし会館

日本大学 OB・OG 混声合唱団　第 16 回 OhMON CHOR（おーもんコール）定期演奏会　―コーラスの響きをご一緒に楽しみませんか！―

OhMON CHOR（おーもんこーる）は日大卒業生中心の混声合唱団です。日本大学カザルスホールで 2010 年 3 月 28 日まで長年、演奏活動を続けてきました。近年は渋谷区文化総合センター大和田 6 階伝承ホールを拠点として演奏を行っています。昨年秋には学生時代に戻って合宿集中練習も実施し、2019 年 11 月 11 日に第 16 回定期演奏会を開催しました。草競馬、夢路よりなど昔口ずさんだ懐かしいフォスター名曲集、三善晃作曲・谷川俊太郎作詩『クレーの絵本　第 1 集』、ソリストをお招きしてのヴィヴァルディ≪グロリア≫、ソリストによるガラコンサート、委嘱アンコールピース 河田理奈作曲『新しい風』の演奏は今までで一番の出来となり、ご来聴の皆様から満場の暖かい拍手をいただき、団員一同、感動の演奏会とすることが出来ました。薬学部卒業生の皆様も多数ご来場いただき有難うございました。『新しい風』は You tube にて演奏をお聴きいただけます。Ohmonchor 新しい風で検索可能です。是非ご覧ください。

東京藝術大学声学科卒の第一線でご活躍の若い指揮者藤丸崇浩、副指揮者増原英也、ピアニスト辻田祐希の指導のもと、薬学部 OG の 11 名［6 期：辻（木村）厚子、景山（石黒）洋子、10 期：木村由美子、牧村瑞恵、米川（川口）幸子、11 期：青木（矢島）洋子、12 期：小林（坂部）香代子、14 期：小林京子 15 期：上村（今村）敏子、16 期：何（滝口）和子、38 期：國司（小林）なほ子］も楽しく歌っています。70 代のメンバーが大半となり、若い皆様のご参加お待ちしています。同窓はいいもので、すぐ打ち解けていただけます。若い頃、合唱を楽しまれた皆さま、初めての方もご一緒に歌いませんか！

神田・秋葉原にある千代田区小学校施設で毎月第 2,3 金曜日 18 時半から、第 4 日曜日 14 時から錬習しています。毎回、副指揮者の楽しい柔軟体操とヴォイストレーニングで老化防止と共に声は大丈夫出るようになります。次回 2021 年 2 月 22 日（月）開催の第 17 回定期演奏会に向け、シューベルト作曲 / マイヤー編曲バリトン、合唱、ピアノのための『冬の旅』の 2 回連続全曲演奏に挑戦、その第一部を、学生時代に学んだドイツ語を思い出しながら巻き舌を使って練習しています。日本の曲は岩河三郎作詞構成・作曲「富山に伝わる三つの民謡」越中おわら、こきりこ、むぎやを楽しく練習しています。

桜薬会の皆様方のご入団をお待ちしております。詳細 HP http://www.ohmonchor.org.jp/

E-mail:y-kimura@xb3.so-net.ne.jp　（OhMON CHOR　10 期木村由美子）

ヴィヴァルディ≪グロリア≫

「フォスター名曲集」

2019.11.11 OhMON CHOR　第 16 回定期演奏会　渋谷区文化総合センター大和田・伝承ホール

日本大学・日本大学校友会ニュース

役教職員年頭会同開催

恒例の年頭会同が令和２年１月９日（木）11 時から、市ヶ谷の日本大学会館２階の大講堂で開催された。田中英壽理事長は年頭のご挨拶の中で、昨年は創立 130 周年を迎え、「130 年の輝きと共に、未来を創る」のキャッチフレーズの下で一歩を踏み出す年となりました。本年はこのキャッチフレーズを忘れることなく、これまでの歴史と伝統を踏まえ、総合大学の強みを生かし、心を一つにして新たに挑戦して行く年としたいと挨拶された。次に大塚吉兵衛学長は「日本大学教育憲章」に示したように教育の現場で学生と向き合って充実した学修が進められるよう、教育力を高めていかなければなりません。自主創造の日本大学マインドを備えた学生を育成することが責務であり、なお一層教育力を高めて前進していきたいと挨拶された。鏡開きに引き続き、乾杯を行い懇親会が開催されました。盛会の中、日本大学の益々の発展を心に刻み年頭会同がお開きとなった。

創立 130 周年を記念した全国校友大会開催

創立 130 周年を記念した全国校友大会が令和元年 11 月１日（金）に東京ドームホテルで開催された。校友会会長田中英壽理事長、大塚吉兵衛学長ら関係者約 800 人が出席した。田中校友会会長は令和を迎えて初めての開催をうれしく思います。これまで 130 周年を目標に進んできましたが、更に発展し日本一教育力のある大学となるよう努力していきたいと抱負を述べられた。来賓代表として大塚学長は自主創造の教育理念のもと学生を育ててきたが令和元年を新たなるスタートとして輝く未来を創っていきたいと挨拶された。その後乾杯、懇親と進み盛況のうちに幕を閉じた。

日本大学校友会正会員募集中

皆様は日本大学薬学部校友会が、日本大学校友会の下部組織として活動していることはすでにご存じのことと思います。薬学部校友会は卒業生を正会員に、在校生を学生会員として構成しております。日本大学では卒業生全員に、毎年２月頃、会誌「KIZUNA（絆）」を送付し、別途登録して頂いた校友を正会員（会費 10,000 円）として正会員会誌「桜縁」（年２回発行）をお届けしております。正会員会費の一部は薬学部校友会へ納入した翌年に還付されます。還付金は還付当年度の薬学部校友会年会費としております。ぜひ正会員登録をして頂きたくお願い致します。希望者は事務局までお知らせ下さい。

工学部薬学科・理工学部薬学科卒業生にお願い：

登録・会費納入に際して郵便振替用紙記入の時、「所属する支部・部会」欄に必ず「薬学部校友会」と記入して下さい。無記入ですと本会に還付されませんので、薬学部校友会会費に振り替えることが出来ません。ご注意下さい。

薬 学 部 ニ ュ ー ス

学園祭（桜薬祭）

第 31 回桜薬祭が令和元年 11 月 3 日（日）・4 日（月）に開催されました。今年は心機一転して新たな歴史を築きたいという意味を込め「平静ではいられない！令和の新たな桜薬の風」をテーマに、新たなステージ企画として、お笑いライブを開催し、例年以上に活気のある学園祭になりました。

また、校友会の主催による恒例の桜薬クイズ、サークル団体による模擬店の出店、音楽ライブ及びダンスパフォーマンス、その他展示発表等が催されました。6 年制薬学教育は年々高度な内容となり普段の学生生活も大変になる一方ですが、この日はテーマどおり、最後まで大きな盛り上がりをみせた学園祭となりました。

薬草教室・薬用植物園ガイド

第 29 回薬草教室が令和元年 11 月 4 日（月）に開催されました。講師に星薬科大学名誉教授の南雲清二先生をお迎えし「人々を救った薬用植物」と題し、17 世紀に南米で発見されたマラリアに卓効があるキナノキ（キナ）について紹介があり、受講者は大変興味深く聴講していただいたようでした。

また、講演終了後、希望者は薬用植物園に移動し、生薬学研究室の松﨑教授及び矢作助教の丁寧な説明に耳を傾け、様々な薬用植物を見学されました。

薬用植物園は薬草教室、公開講座、オープンキャンパス開催時に公開しています。今年度の公開日時等については薬学部ホームページを御参照ください。

学術講演会

第 30 回薬学部学術講演会が令和元年 11 月 3 日（日）に 821B 講義室にて開催されました。60 名が参加し一般講演、薬学部共同研究助成金・研究推進助成金の成果発表、海外派遣者による報告等、合計 18 演題が発表されました。

本学部の専任教員・大学院生に加え、生産工学部教員、また医療の現場からは薬剤師による地域医療における役割やがん専門認定薬剤師の育成等、多岐に渡る報告となりました。また、恒例となったコーヒーブレイクでは、それぞれ垣根の越えた意見や情報が交わされました。

本年度の新たな試みは、講演会の状況を 822 講義室のスクリーンに投影し桜薬祭来場者や学部生等が気軽に出入りし、聴講できるスペースを提供しました。

共用試験

令和元年 12 月 1 日（日）に OSCE が、令和 2 年 1 月 11 日（土）・12 日（日）に CBT が 4 年生に対してそれぞれ実施されました。この 2 つの試験は、薬学生に必要な知識、技能及び態度を総合的に評価するものであり、この試験に合格しなければ、その後に実施される薬学実務実習に参加することができなくなります。学生たちは日頃、対策講座や実務事前実習で培った成果を発揮して合格できるよう、緊張の中、試験に臨んでいました。

薬学部入学試験

入学試験（A方式）は令和２年２月５日（水）に行われました。志願者数は 895 名でした。試験は船橋試験場、東京試験場の２会場で実施しました。

また、全学統一入試であるN方式を令和２年２月１日（土）に行い、志願者数は 263 名でした。

生涯教育講座

昨年度も薬剤師のスキルアップへの貢献を目指して、４月より日本大学薬学生涯教育講座として［最近のトピック］、［ファーマシューティカルケアの最前線］、［ブラッシュアップセミナー］、［大学院（土曜）講義受講コース］及び［薬剤師実践セミナー］を開催しました。今年度も引き続き開講いたします。開講予定等については薬学部ホームページを御参照ください。

教員の人事

1　役職発令（2020.4.1）

①　担当発令

（1）学部次長　山　中　健　三　教授（環境衛生学）
（2）学務担当　松　本　宜　明　教授（臨床薬物動態学）
（3）学生担当　小　野　真　一　教授（臨床医学）
（4）企画・広報担当　鈴　木　豊　史　教授（薬剤学）
（5）研究担当　榛　葉　繁　紀　教授（健康衛生学）
（6）就職指導担当　林　宏　行　教授（薬物治療学）
（7）図書館分館長　日　髙　慎　二　教授（医薬品評価科学）

2　教授発令（2020.4.1）

①　昇格

（1）小　林　宏　司（物理学）
（2）小　林　弘　子（病原微生物学）

3　専任講師発令（2020.4.1）

①　新任

（1）田　沢　恭　子（英語１研究室）
（2）西　本　裕　樹（機能形態学）

②　職種変更

（1）小田桐　功　武（薬剤教育センター）
＜医学部付属板橋病院より＞

4　所属替え（2020.4.1）

（1）渡　邉　文　之　教授
異動先　地域医療薬学　異動元　薬剤師教育センター
（2）泉　澤　恵　専任講師
異動先　地域医療薬学　異動元　薬事管理学
（3）中　島　理　恵　助教
異動先　地域医療薬学　異動元　薬事管理学

5　異動（2020.4.1）

①　専任講師

（1）中　山　敏　光（薬剤師教育センター）
＜医学部付属板橋病院へ＞

6　退職（2020.3.31）

①　依願

（1）亀　井　美和子　教授（薬事管理学）
（2）金　沢　貴　憲　専任講師（薬剤学）

令和３年度　日本大学薬学部入学試験期日及び科目等

	一般選抜Ａ個別方式　第１期	一般選抜Ｎ全学統一方式　第１期	一般選抜Ｃ共通テスト利用方式
1 募集人員	100 名	12 名	10 名
2 出願資格	日本大学入学試験要項に同じ		
3 出願書類	①　出願確認票 ②　出願資格を証明する書類		
4 選考方法	学科試験（マークシート方式） ①　数学：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ（確率分布と統計的な推測を除く）」60 分【配点 100 点】 ②　理科：「化学基礎・化学」60 分【配点 100 点】 ③　外国語：「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」60 分【配点 100 点】 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。	学科試験（マークシート方式） ①　数学①：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ（確率分布と統計的な推測を除く）」60 分【配点 100 点】 ②　理科：「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから１科目選択 60 分【配点 100 点】 ③　外国語：「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」60 分【配点 100 点】 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。	学科試験 ①　数学：『「数学Ⅰ・数学Ａ」、「数学Ⅱ・数学Ｂ」』【配点 200 点】 ②　理科：「化学」【配点 200 点】 ③　外国語：「英語（リーディング）」、「英語（リスニング）」【配点 200 点】 ※理科において２科目受験した場合は、第１解答科目が「化学」の場合のみ合否判定に使用する。 ※理科については、大学入学共通テストの配点を上記の配点に換算し、合否判定する。 ※「英語（リスニング）」の成績を利用する。
5 出願期日	令和３年 １月５日（火）～28 日（木） 窓口受付： １月 27 日（水）・28 日（木）	令和３年 １月５日（火）～22 日（金） 窓口受付： １月 21 日（木）・22 日（金）	令和３年 １月５日（火）～16 日（土） 窓口受付： １月 16 日（土）
6 選考日	令和３年２月５日（金）	令和３年２月１日（月）	大学入学共通テスト 令和３年１月 16 日（土）・17 日（日）
7 合格発表日	令和３年２月 10 日（水）		令和３年２月 10 日（水）
8 入学手続締切日	令和３年２月 17 日（水）（二段階３月 11 日（木））		令和３年２月 17 日（水）（二段階３月 11 日（木））
9 入学検定料	35,000 円	18,000 円	18,000 円
10 試験会場	船橋（日本大学薬学部校舎）、東京	日本大学一般選抜Ｎ全学統一方式試験場	大学入学共通テスト試験場
11 出願方法・書類送付先	インターネット出願 日本大学入試センター Tel 03-5275-8300		

※１　一般推薦入学試験（指定校制）（募集人員 10 名）は、11 月 21 日（土）実施。
　２　付属高等学校等推薦入学試験（基礎学力選抜）（募集人員 85 名）は、11 月 21 日（土）実施。
　３　付属高等学校等推薦入学試験（国公立併願方式）（募集人員２名）は、11 月 21 日（土）実施。
　４　詳細については、日本大学薬学部ホームページ及び学生募集要項にて確認してください。

	校友子女選抜	学校推薦型選抜（公募制）
1 募集人員	５名 （合格基準に達しない場合には、 合格者数が募集人員に満たないこともある）	２０名
2 出願資格	次の①及び②の要件を満たす者。 ① 大学入学資格を有し、本学部への入学を第一希望とする者で、次のいずれかに該当する校友の子女（法定血族を含む２親等内直系血族）である者 ただし、法定血族の場合は、大学入学年度の３年前の４月１日以前に養子縁組をしていること ② 合格した場合、本学部に入学することを確約できる者	本学部での学業を強く希望し、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者で次のいずれかに該当し，出身学校長が推薦するもの ① 高等学校もしくは中等教育学校を令和３年３月卒業見込みで、第３学年第１学期（又は前期）までの全体の学習成績の状況が3.5以上の者 ② 高等学校もしくは中等教育学校を令和２年３月に卒業し、卒業時の全体の学習成績の状況が3.5以上の者
3 出願書類	① 校友子女確認書 ② 入学志願票 ③ 出身学校調査書等	① 学校長推薦書 ② 自己推薦書 ③ 出願確認票 ④ 出身学校調査書
4 選考方法	① 書類選考 ② 面接 ③ 基礎学力検査（マークシート方式） (1)「化学基礎・化学（高分子化合物の性質と利用を除く）」45分【配点200点】 (2)「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」45分【配点100点】	① 書類選考 ② 面接 ③ 基礎学力検査（マークシート方式） (1)「化学基礎・化学（高分子化合物の性質と利用を除く）」45分【配点200点】 (2)「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」45分【配点100点】
5 出願期日	令和２年11月１日（日）～４日（水）	令和２年11月１日（日）～４日（水）
6 選考日	令和２年11月21日（土）	令和２年11月21日（土）
7 合格発表日	令和２年12月１日（火）	令和２年12月１日（火）
8 入学手続締切日	令和２年12月７日（月）	令和２年12月７日（月）
9 入学検定料	35,000円	35,000円
10 試験会場	日本大学薬学部校舎	
11 出願方法・書類送付先	郵送による出願 日本大学薬学部 Tel 047-465-8480（直通）	インターネット出願 日本大学薬学部 Tel 047-465-8480（直通）

第 18 回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

第 18 回の日本大学医療系同窓・校友学術講演会が令和元年 9 月 28 日（土曜日）に歯学部同窓会の当番幹事のもと、日本大学会館大講堂で開催されました。本講演会は医学部、松戸歯学部、歯学部、生物資源科学部および薬学部と、いわゆる医療系学部が一堂に会して毎年開催している学術講演会です。今回のテーマは「スポーツ」でした。大塚吉兵衛日本大学学長のご挨拶の後、各学部から約 30 分の講演がありました。各講演の概要を発表順に述べます。

松戸歯学部同窓会からは、「スポーツに対する歯科医学の貢献－今東京オリンピックに向けて頑張っていること－」のタイトルで、口腔健康科学講座の鈴木浩司先生の講演でした。スポーツ選手の健康維持に食事摂取は欠かせませんが、そのためにも歯科治療は重要と認識されているそうです。歯科診療によって食べる楽しみや気持ちのリフレッシュなど精神面でもプラス効果があるそうです。

次の生物資源科学部は現在、中央競馬会に所属されている草野寛一先生の講演でした。現在、薬学部でもアンチ・ドーピングに学部を上げて取り組んでいますが、競馬の世界のドーピングは人間よりも歴史が古く、様々な薬物を投与して競争能力を高めるような出来事があったそうです。いつ禁止薬物を飲ませたかも重要になるため薬物動態学的な検討もされていて、さらに最近では遺伝子ドーピングまで考慮しているとのことでした。サラブレッドには必ず血統書があるそうですが、遺伝子改変されてしまうとサラブレッドではなくなるため大変危惧しているとのことでした。

3 題目は本学部からロンドンオリンピックの水泳競技に出場された松島美菜先生に講演頂きました。本物のアスリートとして、主に選手時代にどのようにドーピングに相対してきたかについてお話されました。最近、競走馬が肉に含まれていた禁止薬物を摂取して失格となったことがマスコミを賑わせましたが、松島先生も選手時代は口にするものすべてに気を使っていたそうです。これが昂じて風邪をひいても薬は飲まず、サプリメントなどにも手を出さない、といった選手生活時代の苦労話をされ、現在はこれらの経験を踏まえて、薬剤師となった現在、アスリートに向けて薬やサプリメントとどのように向き合っていけばよいか、といった活動をしているとのことでした。

医学部からは脳神経外科学の前田剛先生が、スポーツから脳を守るという講演がありました。ラグビーやサッカーといった肉弾戦での脳震盪は理解できますが、スケート選手の転倒による頭部外傷を含めてスポーツ選手の頭部外傷の事故例は数多くあるそうです。脳震盪で済めばよいのですが、急性硬膜外血腫ともなるととても危険な場合もあるそうで、指導者を含めたスポーツ関連脳震盪教育に取り組まれているそうです。

最後にご登壇されたのは歯学部卒業で現在東京歯科大でスポーツ歯学研究室に所属されている武田友孝先生の講演でした。先生はマウスガード（マウスピース）の作成に協力しているとのことでした。王貞治選手の奥歯が全部無いことは有名ですが、これは運動時に強く噛みしめる結果として歯が破損してしまうからだそうです。このような場合にはマウスガードをつけていると予防できるそうで、選手一人一人に適切なマウスガードを取り付けることで、歯のダメージだけでなく、脳震盪への効果や運動機能の向上も図れるのではないかと話されました。

講演後、各演者による総合討論では、トップアスリートである松島美菜先生に質問が集中してしまいましたが、流石、松島先生はご自身の経験を見事に伝えられ盛会裏に会は終了致しました。医療系 5 学部の先生方から大変貴重で興味深い講演を頂きました。普段、専門分野の学会では聞くことのできない内容で、研究の視野が広がるような講演会です。次年度の予定は未定ですが、皆様も是非、医療系同窓校友会に足を運んで頂ければと思います。

（薬物治療学研究室　林　宏行　記）

会　務　報　告

令和元年度工科系校友会連絡会報告

第 37 回日本大学工科系校友会連絡会が令和元年 8 月 31 日（土）に工学部校友会が当番校友会で日本大学工学部（郡山）において開催された。連絡会（出席者 42 名で薬学部 5 名；会長、副会長（2 名）、幹事 1 名、監事（1 名））では、4 学部校友会会長の挨拶と出席者の自己紹介を含めて近況報告があった。

懇親会（出席者 50 名）はご来賓の先生方（出村克宣工学部学部長、落合　実生産工学部学部長、本橋重康薬学部学部長、小林昭男理工学部短期大学部次長、酒井泰志工学部事務局長、逆井　彰生産工学部事務局長、須永　登薬学部事務局長）のご臨席を仰ぎ開催された。中野伍朗工学部校友会会長（当番校友会）の開会の辞で始まり、ご来賓の先生方からご挨拶をいただき、酒井泰志工学部事務局長の乾杯で開宴した。高野和雄生産工学部校友会会長（次期当番校友会）の閉会の辞で終了した。

令和元年度桜薬会賞受賞者

第 28 回桜薬祭実行委員長として活躍した佐野拓夢さんに、令和 2 年 3 月 19 日（木）に挙行された学位記伝達式において賞状および記念品が内倉会長より授与された。

令和元年度薬学部校友会奨学生

薬学部校友会奨学生選考委員会により、入澤直樹（2 年）さん、田中みなみ（2 年）さんの 2 名が奨学生候補者として推薦され、薬学部教授会で審議の結果、承認された。なお、令和元年 11 月 28 日（木）に開催された校友会奨学金授与式で内倉会長より奨学金が授与された。

令和元年度薬学部校友会（桜薬会）奨学生

薬学部校友会（桜薬会）奨学生選考委員会により、申請者 10 名の中から審議の結果、赤平健一（5 年）さん、加納　燎（5 年）さん、天野雅之（5 年）さんの 3 名に決定した。なお、令和元年 12 月 24 日（火）に開催された授与式で内倉会長より奨学金が授与された。

会　合　予　告

薬学部校友会（通称　桜薬会）通常総会並びに懇親会開催のお知らせ

令和２年度薬学部校友会通常総会並びに懇親会を下記により開催いたします。
多数参加下さいますようお願いいたします。

総会

日　時：**令和２年６月28日（日）13時30分～**
場　所：日本大学桜門会館　303会議室
千代田区五番町　2-6（市ヶ谷駅ＪＲ中央線下車　徒歩２分）
総会終了後、桜ホールにて懇親会を開催いたします。
問い合わせ先　TEL　047-465-1478（薬学部校友会事務局）

薬学部校友会幹事会開催のお知らせ

通常総会に向けて幹事会を下記日時により開催いたします。
幹事の皆様にはご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせのうえご出席下さいますようお願いいたします

日　時：**令和２年６月10日（水）18時00分～20時00分**
場　所：日本大学桜門会館　303会議室
千代田区五番町　2-6（市ヶ谷駅ＪＲ中央線下車　徒歩２分）

薬学部硬式テニス部OB・OG会のご案内

2020年度の薬学部硬式テニス部OB・OG会を下記の要領で開催致します。
皆様お誘い合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。ご出席の方は、以下の幹事まで連絡ください。特に、お車を利用の方は必ず事前に幹事にまでご相談ください。

日　時：**2020年５月３日（日）**
昼の部（雨天中止）：テニス大会（13：00開始）
場　所：日本大学薬学部テニスコート
会　費：500円
夜の部：懇親会（18：30～21：30）
場　所：大人の隠れ家個室農家の台所　八助　津田沼店
千葉県習志野市津田沼1-2-7- 5F (Tel. 050-3476-4708)
会　費：4500円程度
なお、雨天時は夜の部（懇親会）のみの開催になります
連絡先：090-2740-9152（幹事：池畑）
Email：dreamone1225@gmail.com.

詳細は下記のFacebookでもご確認いただけます
Facebook　https://www.facebook.com/groups/1638431826374703/

旧生物学研究室・旧分子細胞生物学研究室合同同窓会のお知らせ

日　時　**令和２年９月26日（土）16時～18時**
場　所　日本大学桜門会館　桜ホール
千代田区五番町2-6
JR総武線・中央線市ヶ谷駅、東京メトロ市ヶ谷駅　徒歩３分
会　費　7,000円
連絡先　小川 吉夫　Tel: 090-7408-0796　E-mail: yoshiospnov@gmail.com

第24期、第25期　合同同期会のご案内

第24期、第25期合同の同期会を下記の通り、開催致します。会場等詳細は追ってご連絡致します。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

日　時：**令和２年10月17日（土）15時～**
幹　事：石塚善久、桑田信博、山口良夫、村山琮明（24期）
梅沢芳史、東海林正弘、三村光明、森本　宏、目鳥幸一（25期）
連絡先：murayama.somei@nihon-u.ac.jp（村山）、047-465-3794
metori.kouichi@nihon-u.ac.jp（目鳥）、047-465-7362

薬学部校友会（桜薬会）ホームページでの求人情報募集

会員からの求人情報の掲載は無料です。求人申込書はホームページの「求人・求職」のページからダウンロードし、必要事項をご記入の上、事務局に郵送（あるいはＦＡＸ）してください。なお、「求人・求職」のページを閲覧（ログイン）するには、会員番号ＩＤが必要です。会員番号ＩＤは封筒宛名下にある会員番号の下６桁です。

ホームページアドレス；http://alumni.pha.nihon-u.ac.jp
メールアドレス；pha.alumni@nihon-u.ac.jp

物故者名簿：心よりご冥福をお祈り申し上げます。（2020.01.31現在）

正会員
1期　中澤（遠藤）文子（2019.01.01）
2期　古　賀　　鉄　也（2020.01.13）
3期　石　塚　　芳　史（2019.09.27）
4期　笹　野　　英　雄（2019.09.23）
4期　島　峯　　望　彦（2019.12.13）
4期　鈴木（小熊）信子（2019.12.10）
7期　佐　伯　　浄（2019.03.27）
7期　高　田　　十三男（2018.11.　）
7期　豊　田　　明（2019.02.11）
8期　正木（窪内）節子（2019.08.23）
14期　阿　部　　力（2017.05.27）
14期　山川（高橋）頴子（2019.02.27）
15期　黒河内　　雅　夫（2019.12.18）
15期　吉原（梁栄鎬）昇（2017.08.　）
18期　松　川　　啓　二
23期　伊藤（溝越）龍子
23期　西　田　　秋　美（2018.02.22）

校友会事務局に、死亡日時、葬儀日時、会場、喪主をご連絡いただければ、会より弔電を打たせていただきます。

会 費 納 入 報 告

財務委員会

会費を納入いただきました方の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがありましたらお知らせください。

本部準会員（学生会員）会費納入者は人数のみのご報告とさせていただきます。

（令和元年８月１日～令和２年１月 31 日）

会費納入者

2,000 円納入者

56 狐塚治子 57 大渕勝範，福永重弥 60 杉崎敦子 61 景山洋子，町田巌 63 町田芙美，吉田紀子 64 廣瀬慶子，布施孝三郎 65 秋元敦信，松本南海雄 69 阿部妙子 71 渋谷正 77 荒井唯男，川崎雅博 79 大塚正征，柳典子 84 千葉直樹，山田幸次 86 渡部靖宏 89 沖坂裕美 94 佐々木博将 99 廣瀬諭 08 下側由季　以上 25 名

4,000 円納入者

56 山崎俊子，分林孝夫 72 三橋正治 75 佐藤澄子 82 青木克美 90 神谷洋 91 永野義武 92 鈴木豊史　以上 8 名

10,000 円納入者

59 小泉守 61 金西信次，小荷田孟史，坂本寿三，吉村幸子 62 平林哲郎 64 小室則子 65 高橋捷泰，日吉孝子 66 木村英二，千葉良子 67 津路紀子 69 杉山信子 70 田中充裕，初鹿英司 72 小野洋子，川畑秀志，三東恵利，高木友直，高木百合江，寺島正美，牧野照男 74 伴野和夫 75 池松日出子，佐野真司，澤部晶子，都丸大器 76 汐月吉子 77 奥山靖子，酒井原謙吾，角南美津子，藤田学，山口洋子 78 笠原義正，金井直明，深澤武彦 79 蔵元良行 80 河井明子，川口英美，深江公美子，外崎誠三 81 潮田龍一郎，小森谷友宏，町田祥子 82 岡野京子，下川康男，山北信広，山下義昭 84 佐藤芳恵，宮﨑美奈子 85 鈴木久仁子，高橋善一，古田緑 88 金塚明子，小林正典 89 尾山望，高野史子 90 笠原達也 91 極檀幸次，中嶋順一，松田耕一郎 92 荒井英治 93 愛澤昌宏，岡本政徳，中山敏光 94 安部恵，品川真之 95 匿名，幕内光行，宮坂知宏 97 岡添進，小池晃代，伊藤幸恵 98 青柳利紀，桶田麗子 99 荻野哲也 03 伊東育己，木元慎一郎 04 内田禎一郎 05 木村真弓 07 阿部圭佑 08 小川光一，安東理大 09 白鳥千夏　以上 84 名

20,000 円納入者

73 山根典子 74 工藤隆子 86 原英行 88 樋口久江 89 伊藤雅代 90 秋山彰美 94 飯嶋久志，福田万理 00 伊藤崇

以上 9 名

30,000 円納入者

97 匿名　以上 1 名

令和元年度本部準会員会費納入者（薬学部校友会へ会費還付があった者）

学部　2 年　2 名　　大学院　4 年　1 名
学部　3 年　1 名
学部　4 年　3 名
学部　5 年　1 名
学部　6 年　5 名

以上 13 名

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金寄付者

64 渡邊和子 80 遠藤尚登 01 齋藤弘明

広告掲載企業　日本メディカルシステム㈱

合計 470,000 円

会費納入のお願い

校友会活動は会費により運営しています。会費納入にご協力をよろしくお願いいたします。

宛名に会費納入状況が印刷されています。（会員番号に☆印のある方は未納です。）

未納の方は同封振込用紙で会費納入をお願いいたします。会費は年額 2,000 円です。事務簡素化のため 5 年分 10,000 円または 10 年分 20,000 円を一括納入していただければ幸甚です。

全国
チェーンストア
90店舗
研究開発型 調剤薬局
日本メディカルシステム株式会社
Since 1975
研究開発型
調剤薬局
経営安定度
No.1
従業員数1,189人
(2019年)
首都圏
75店舗
初任給
No.1
長期休暇
No.1
教育制度
No.1
安定経営
No.1
敷地面積 12,000m²
H.I.C PHARMACY
HEALTHY INTELLIGENT CITY
日本最大級医療モール 当社調剤薬局
首都圏直営75店 全国直営90店舗
日本大学
卒業 薬剤師
募集中
代表取締役社長
高木 友直
昭和47年度 卒業
研究開発型 調剤薬局 日本メディカルシステム
〒110-0005 東京都千代田区丸の内2-5-1 丸の内二丁目ビル6F 0120-965-221
https://www.jmsys.jp

令和２年度
通常総会・懇親会のお知らせ

日本大学薬学部校友会（通称　日本大学桜薬会）会則第１１条に従い令和２年度通常総会・懇親会を下記要領により開催いたします。

この総会は日本大学校友会の一翼を担う学部校友会として重要な行事です。ご多用中とは存じますが、万障御繰り合わせのうえ、ご出席下さるようお願いいたします。

記

総　会

日　時　**令和２年６月２８日（日）午後１時３０分**

場　所　**日本大学桜門会館　303 会議室**
千代田区五番町　２－６
市ヶ谷駅 JR 中央線下車　徒歩 ２分

議　題　第１号議案　令和元年度庶務報告・事業報告
決算報告及び監査報告
第２号議案　令和２年度事業計画・予算案
第３号議案　役員承認

懇親会　**午後３時～５時**

場　所　**日本大学桜門会館（桜ホール）**

会　費　**￥3,000**　（当日会場で申し受けます）

準備の都合がありますので**６月７日**までに同封ハガキでご返信ください。

発行日　令和２年４月 15 日
編集人　日本大学薬学部校友会事業委員会
発行人　日本大学薬学部校友会　内倉和雄
印刷所　協友印刷株式会社
TEL　03-5948-7150

発行所　千葉県船橋市習志野台　7-7-1
日本大学薬学部内（〒 274-8555）
TEL/FAX　047-465-1478（直通）
E-mail：pha.alumni@nihon-u.ac.jp
振替口座番号　00140-0-53798
振替口座名　日本大学薬学部校友会